

主人公は高級SMクラブ「Club MASOINWASH」の常連。久しぶりに来店してみると、新人が一人入っているという。シオリの勧めで新人を指名してみた主人公だったが……。

主人公が来店。シオリがカウンター越しに対応する。

相手が常連ということで、礼儀正しさの中に少し親密さが見える。

【シオリ】いらっしやいませ。いつもありがとうございます。

【シオリ】本日は指名なしでのご予約ですね。いまのところ、このお三方に調教していただくことができますが……どうなさいますか？

【主人公】おススメの方はいます？

【シオリ】おススメ……、そういわれると少し困ってしまうのですが……。

シオリ、液晶パネルでリオナの情報を示す。

【シオリ】こちら……リオナ様ではいかがでしょうか。まだ入店したての女王様なんですけど、プレイはママのお墨付きですよ。研修もびっちり受けてもらって、技術的にはほかの女王様に引けを取らないと思います。

【主人公】なんだかずいぶん若そうですね。

【シオリ】ええ、まだ10代です。

【シオリ】そうだ……、いかがでしょう。リオナ様のプレイ……体験していただけませんか？ まだ私もどうお客様にご紹介していいものか……。

【シオリ】それに、女王様は奴隷が育てるってママもよく言ってますし。新人を教育すると思って、お引き受けいただければありがたいのですが……。彼女を一人前の女王様に育てていただけ难道いしょうか？

【シオリ】終わった後にご満足いただけないようでしたら、お代はお返しいたしますので……。

【主人公】そこまで言うならまあ、指名してみようかな。

【シオリ】本当ですか？ どうもありがとうございます。

【シオリ】それでは……ええと、3号室にご案内いたします。お部屋に入ったら、服を全部脱いで、全裸でドアに向かって、正座してリオナ様をお待ちください。

【主人公】服を脱いで？

【シオリ】ええ、リオナ様のご指示なんです。すべてのお客様にそうやって待たせるようにって。

【主人公】そうですか、わかりました。

【シオリ】それではどうぞ、ごゆっくり。お楽しみくださいませ。